防衛大学校本科第３４期学生及び理工学研究科第２５期学生入校式における学校長式辞（昭和６１年４月５日）

第4代学校長　土田　國保

本日、防衛大学校第３４期学生５１２名及び理工学研究科第２５期学生６２名の入校式を挙行するに当たり、北口防衛政務次官[注(1)]、松尾海上幕僚副長[注(2)]、小谷防衛研究所長[注(3)]、鈴木統合幕僚会議事務局長[注(4)]、寺島陸上幕僚副長[注(5)]、谷航空幕僚副長[注(6)]、古閑自衛艦隊司令官[注(7)]をはじめとする各位、更に地元横須賀市からは、横山市長[注(8)]、井料市議会議長[注(9)]等、多数の来賓の御臨席を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。また、全国各地から御臨席をいただきました父兄の皆様方に対しましても、心からお礼申し上げますとともに、御子弟の入校を衷心よりお祝い申し上げる次第であります。

本科入校の新入生諸君、諸君は多数の受験者の中からめでたく難関を突破し、この栄ある入校式に参列されたのであります。心からお祝いいたしますとともに、諸君が自らの意思により、尊き祖国日本の防衛に身を挺するの気概を秘めて、本日を迎えられたことに対し、衷心より敬意を表し、在校の全職員、全学生とともに諸手を挙げて歓迎するものであります。また、シンガポール共和国及びタイ王国よりの留学生６名の諸

注(1)　北口　博
注(2)　松尾　正
注(3)　小谷　久
注(4)　鈴木英樹
注(5)　寺島泰三
注(6)　谷　篤志
注(7)　古閑健一郎
注(8)　横山和夫
注(9)　井料克己

君に対しましても、心から歓迎の意を表します。

さて防衛大学校の教育は、防衛庁設置法第１７条に明示されてありますとおり、「幹部自衛官となるべき者を教育訓練する」ことを目的といたしております。すなわち防衛大学校は、将来、陸・海・空各自衛隊において活躍すべき幹部を育成するために存在しているのであります。この故に、本校の教育は、他の一般大学のそれと共通なものを多く持ちつつも、併せて他の大学には全く見られない特色を有するものであり、諸君は今後４年の間、この防大教育の基本方針に則り、大いに研鑽努力せられんことを、切に期待するものであります。

まず第一に諸君は、今後自らの人間形成において、真の紳士にして真の武人たるにはいかにあるべきかの追求を、諸君の日常生活を支える柱として打ち立てていただきたい。未来の幹部を育成する本校においては、全学生の規律正しい団体行動、そして団体訓練が、学生生活の基幹をなしているのでありますが、特に第１学年にあっては、まず形から入ってゆく日常の躾教育と基本訓練からスタートするのであります。これは、将来、多くの部下を指揮統率する長たるべき立場に立つ者としての資質錬成の第一歩なのであります。諸君は、指導教官による指導や、上級生のアドバイスの下に、幹部候補生たるにふさわしい容儀・態度の持主となることが期待されているのであります。

もとより４年間を通じての学生生活は、他律的強制の下、個人の自主性や個性が失われるような雰囲気では毛頭ありません。学年がすすむにつれて、自主自律の生活態度が重視され、その間に己れの個性を伸ばし、幅広く奥行の深い人間形成を遂げてゆくことが要求されているのであります。将来、自衛隊幹部として役立つためには、自制の心と自主積極の精神が何より必要なのであります。諸君もやがて、指導される立場から、下級生に対して、率先垂範を要請される側に立つのであります。率直に申して、入校当初は、生活環境の変化もあり、精神的・肉体的にも慣れず、戸惑いや困難を覚える向きもありましょう。しかし、卒業した１万４千人の先輩が、皆それを乗り越えてきているのであります。どうか諸君一人一人が、この４年間の小原台生活を通じて、見事なる人間的成長を遂げ、個性豊かにしてリーダーシップを発揮できる若人として、巣立ってゆかれんことを切に期待するものであります。

第二に諸君は、学生として、学問の研鑽に大いに励んでいただきたいのであります。今日、どの先進諸国においても、その士官候補生教育は、一般大学レベル以上の知的水準の達成と学力の向上を目指しておりま

す。我が防衛大学校におきましても、文部省の大学設置基準に準拠した理工学系・人文社会学系教育に加え、防大独特の防衛学教育を学業の主たる内容といたしておるのであります。諸君のこれからの勉学が、本物の自衛隊幹部として育ってゆくことに繋がりますよう祈ってやみません。スタートが一番肝要であります。優れた教授体制を擁するこの本校において、受身かつ中途半端な気分で日常を終始するには、この４年間はあまりにも貴重すぎるのであります。今後、この壇上におられる各教室主任その他各教官方の指導に従い、真剣に学術の研鑽に努められ、将来の大成の基を培われるよう切望するものであります。

第三に諸君は、課業として所定の訓練・体育に励まれるとともに、必ず何等かの校友会活動に自発的に参加して心身を鍛え、また、多方面にわたる豊かな文化的情操を養っていただきたいのであります。将来、幹部たるには、いかなる状況下にあっても、あくまで己れの使命を達成し抜くことのできる気力・体力の持主でなければならないことは申すまでもありません。時あたかも２０歳前後、心身の鍛練には絶好の機会であります。また、各般の文化活動についても、吸収力旺盛な青春時代の蓄積こそ、将来の内面的成長の基礎を培うものと存じます。そして、これらの活動を通じて、生涯にわたる良き師、良き先輩後輩、そして同期生の絆が固く結ばれますよう心から祈るものであります。

次に、理工学研究科に入校された諸君に申し上げます。諸君は、このたび特に選抜されて、本校の研究科において、今後２年の間、一般大学の修士課程相当の高度な科学技術の修得に専念される機会を与えられたことを、まず心からお慶び申し上げます。今日まで諸君の多くは、第一線における自衛隊の各部隊、艦船等にあって、それそれ多忙にして重要な任務を遂行されてこられたのでありますが、他面、学窓を離れて数年、研学の道から遠ざかることを余儀なくされておられたかと存じます。この研究科生活において、諸君は今一度学究生活に入られ、過去において履修されたことを改めて踏まえながら、より高度な科学技術の研鑽に励まれ、大いなる自信とともに、将来の大成の基礎を更に固められるよう期待してやみません。今や世界各国は、それぞれ国力を傾けて、国防科学技術の充実に努めつつあります。東西の冷戦下、その立ち遅れは、取り返しのつかない厳しい現実に思いをいたしますとき、我が国の今後の防衛科学技術の進歩のため、諸君の一層の努力と増進を期待してやみません。

頃は爛漫たる桜花を迎える春４月、青き海原を眼下におさめるこの小

原台上にあって、祖国防衛の尊き使命達成のため、第一歩を踏み出さんとする諸君の健闘を心より祈りつつ、ここに式辞を終るものであります。